



## 四 気 折 々

川越町立川越中学校  
学校だより第19号  
令和4年9月12日

学校教育目標 『 自立した生徒の育成 -自律・調和・創造- 』のもと  
・自分を大切にする ・他者を大切にする ・粘り強くやり切る 生徒  
・人を大切にする ・安全で安心できる ・地域や保護者とともにある 学校 づくりを目指します

【学校だより 18 号「平和への誓い」から】あなたにとって大切な人は誰ですか？家族、友だち、先生。大切な人がたくさんいます。大切な人と一緒に過ごす。笑い合う、そんな当たり前の日常はとても幸せです。（子ども代表 広島市立小中学校2名の児童の言葉から抜粋して）

『 当たり前の日常はとても幸せです 』・・・  
そんな日常は「居心地（いごち）の良い学級であり、学年であり、学校の中にある」  
と思う。そんな日常を、2学期の生活の中で行事等の取り組みを通じて感じてほしい。

【「学級通信」「学年通信」のコメントからの抜粋】

みなさんのコメントから、「当たり前の日常」について考えさせてくれます。みなさんのコメントには、いつも仲間がいます。いつもクラス・学年のことを考え、想うメッセージがいっぱい。それが、「居心地のよい学級・学年・学校」を支える原動力（エネルギーや活力）となります。だから、全校のみなさんと共有したい・・・。

今日は久しぶりに1-5のみんなに会えて、うれしかったです！やっぱり1-5にいるといつも楽しくて、このクラスでよかったなって思っています。 【1年5組女子生徒 9月8日 1年5組学級通信79号から】

やっぱり休み時間に同じ人になってしまうので、自分から積極的に声をかけて”関わり”を作っていきたいです。一人で声をかけにいても集団にはならないので、何人かでいって集団をつくっていきたいです。

【1年2組女子生徒 9月8日 1年生学年通信82号から】

私は、体育祭で大切なのは一体感だと思います。大縄でもリレーでも、みんなで丸となってやらないと成功しないと思う。 【2年1組女子生徒 9月12日 2年1組学級通信体育祭号から】

まだあまり話した事がない人たちが、前よりもかかわる事ができるような席替えをしたいです。まだ話した事がない人たちが前よりもかかわり、クラス全体が協力できるクラスを作っていきたい。まだかかわりの少ない人でも助け合い、大切にしたい人になりたい。 【2年3組男子生徒 9月7日 2年3組学級通信76号から】

今日は学年の体育祭練習がありました。みんなの全力な姿を見て応援するのはとても気持ちよかったです。体育祭では、みんながもっと協力してやっていきたいです。頑張る！ファイヤー！

【3年2組女子生徒 9月9日 3年2組学級通信29号から】

みんなが最終的に活躍する結果になればいいけど、その行事を純粋に楽しいのも大事になると思う。それが難しい場合には、クラスの雰囲気が大事になると思う。行事が苦手、ケガなどで行事に参加できない人もいるかもしれないけど、その場合は、周りがサポートすることが大事。実際、昔の自分もケガで運動会に出られなかったけど、クラスの仲間が励ましてくれたり、そのときに自分にできることを教えてくれたりしたから・・・。

みんなが前向きに考えられるようにしたほうがいいのかなあと考えました。

【3年1組男子生徒 9月8日 3年1組学級通信132号から】

けっして、全校生徒のみなさん全員が同じような考え方や思いではないかもしれませんが、このような考え方に共感し、寄り添い、一緒に頑張っていける人が、1人でも2人でもクラス・学年、そして学校全体が増えていくことによって、川越中学校はもっともっと『当たり前の日常が幸せ』に思えるようにな、一人ひとりにとって『居心地のよい』学校になっていくと思います。どうでしょうか……。



【写真は、2年3組「社会」授業の様子から】

【 学校だより 18号から継続して・・・ 】

『 平和について考える 』・・・当たり前勉強（学習）できることに感謝。

◆1年1組 国語授業「おとなになれなかった弟たちに・・・」から考える。



「おとなになれなかった弟たちに・・・」米倉齊加年  
【国語授業では、この教材を次のようにつなぎます】

- ① 表現に込められた、登場人物の心情や作者の思いを読みとる。
- ② 時代や状況の中で、自分を見つめていくことの大切さを考える。
- ③ 作品の中で考えた、生徒たちの「生きる表現」をつなぐ。

【9/9の国語授業では、次のことを考えました】

太平洋戦争の真っ最中。アメリカのB29という飛行機からの空襲に備えて、自分たちで掘った防空壕の小さな部屋。父親は戦争に行っている中、僕と母と祖母と妹と生まれたばかりの弟の5人での生活。母親が食べ物をあまり食べなかったり、「僕」が弟「ヒロユキ」のミルクを盗み飲みしてしまった「理由」を考えました。母親の立場で、僕の立場で……。なぜ、大切に思い、かわいがっている弟のミルクを飲んでしまう理由を、その時代に、戦争という背景を通して、生徒がそれぞれに考え、意見を積極的に出し合いました。

【石川先生の授業では、「1対多」のキャッチボールから、生徒の「ことば」をつなぐ】

写真でもあるように、近くの席の人との会話、学習班での会話からも意見を引き出していました。印象的なのは「1対多」のキャッチボール。コロナ禍において授業時間内に長時間にわたり、班やペア学

習がなかなかできません。石川先生の国語の授業では、先生からの発問に対して、生徒たちと先生での「ことば」のキャッチボールが、「1対1」ではなく、クラスの生徒たちからのことばを受け止め、それをまた、生徒たちに返していく。ことばのキャッチボールだけではなく、1年1組の生徒たちが「自分の考えを声にして、根拠をもとに自分の考えを届ける（ことばで先生に、みんなにつたえる）。そのことばに「耳を傾ける」クラスの仲間。石川先生は、意見や考えを発言した生徒だけではなく、どんどん他の生徒にも返していく。そんな、「1対多」のことばのキャッチボールができていました。この手法は、教師と生徒が一定の距離をとり、多人数の方は、同一方向を向くように意図的なことばのやりとりになっています。

【ことば、考え方の共有】

1組の生徒たちは、教科プリントに、一人ひとりの意見を聞きながら、自分の考えを書き込んでいました。石川先生からは、特に指示がなくても周りの意見に耳を傾け、そのことばに対して、書き込みながら記録をとって残していく習慣ができていました。このようなかたちで、「ことば、考え方の共有」を意図的に図っているのがわかりました。

【授業から・・・「当たり前勉強(学習)ができることに感謝」したり、「家族、友だち、先生。大切な人と一緒に過ごす。笑い合う、そんな当たり前の日常が幸せ」に思えるように・・・。】

今日、国語で「おとなになれなかった弟たちに・・・」をやりました。この物語は戦時中が舞台になっていると考えられます。戦争時は空しゅうや、そかいで、教育が戦争中心になっていたと考えられます。だからこそ、平和な時代に生きる自分は、もっと勉強を頑張らないといけないと感じました。

【1年4組男子生徒 9月8日1年3組学級通信ハート♡を磨け！から】

【6月23日『沖縄慰霊（おきなわいれい）の日』小学2年生の女の子の「平和の詩」】

太平洋戦争末期に沖縄であった地上戦で犠牲になっ人々を追悼する「沖縄慰霊の日」。この追悼式で、地元の小学生2年生の女の子が『平和の詩』を朗読しました。

平和の詩 『こわいをして、へいわがわかった』 沖縄市立山内小学校2年 徳本穂菜

びじゅつかんへお出かけ。おじいちゃんやおばあちゃんもいっしょに みんなでお出かけ うれしいな。  
こわくてかなしい絵だった。たくさんの人がしんでいた。小さな赤ちゃんや、おかあさん 風ぐるまやチョウチョの絵もあったけど とてもかなしい絵だった。  
おかあさんが、七十七年前のおきなわの絵だと言った。ほんとうにあったことなのだ。たくさんの人たちがしんでいて ガイコツもあった。わたしとおなじ年の子どもがかなしいように見ている。  
こわいよ かなしいよ かわいそうだよ。せんそうのはんたいはなに？へいわ？  
きゅうにこわくなって おかあさんにくっついた。あたたかくてほっとした。これがへいわなのかな。  
おねえちゃんとけんかした。おかあさんは、二人の話を聞いてくれた。そして仲なお。これがへいわなのかな。せんそうがこわいから へいわをつかみたい。ずっとポケットにいれてもっておく。ぜったいおとさないように なくさないように わすれないように こわいをして、へいわがわかった

